

ぷらんど

JA全農えひめ情報

2017
10 - Nov.
Oct. 11

■特集

温州みかん出荷販売対策と消費宣伝計画



▶川亀酒造正面にて、6代目の二宮靖さん



愛媛の酒蔵めぐり

25

川亀酒造合資会社

代表銘柄 川亀
創 業 1899年（明治32年）
代 表 者 代表社員 二宮 靖
住 所 八幡浜市五反田2-4-1
T E L 0894-22-0315



- ▲(右)「川亀 純米大吟醸 山田錦50」。兵庫県産米・山田錦を50%に精白。低温長期もろみで、フルーティな香りと上品な米の旨みが堪能できる
- (中)「川亀 山廃純米吟醸」。県内でも珍しい山廃造り。きめ細やかで米の旨みのバランスが絶妙、洗練された味わいの酒
- (左)「川亀 純米吟醸 しずく媛」。愛媛県産しずく媛を全量使用。フルーティな香りとやさしい米の旨みが広がる

川亀

明治32年創業当時、八幡浜地方には小集落単位で消費される造り酒屋が30余軒あり、川亀酒造も小さな田舎の100石酒屋として誕生しました。蔵名は地区「川舞」と創業者「亀三郎」氏の名に由来します。

平成の時代に入り、継ぐ気はなかったという現・代表の二宮靖さんは就職氷河期に直面し、やむなく大学院で2年間の酵母実験を経験。時代は焼酎ブームで、蔵の経営状況は悪く……。平成13年、伊方杜氏に替わり製造を一手に担います。抱えた多量の在庫を完売し終えるまでの約5年間は様々な造りを試す有意義な時となりました。自身が飲みたいと思える「派手さはないけれども食事のすすむコクとキレのバランスのとれた飲み飽きない酒」を追求していきます。妥協せず、手を抜かず、作業を進める。シンプルながら、最も大変な洗い物の数々をきれいに洗いきる。一粒一粒を丁寧に処理する洗米、蒸米もまた然り。その延長線上には、無理な圧力をかけない昔ながらの槽しぼり、通常の倍の時間と時間を要する伝統的手法の山廃造り、麹蓋による製麹があります。品質にこだわる特徴ある蔵として広く知られるところとなり、商品の6割は県外へ。しかしながら靖さんは「地元で育てられた小さな蔵です。すから、地元で愛され頑張っていきたい」。地元への思いを詰めた地酒「川亀」は、蔵前を流れる五反田川の伏流水で満たされています。

めぐり〜ど

2017年10-11月号

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



あの暑かった夏がウソのようです。稲穂が実る棚田に涼やかな風が吹き抜け、あぜ道を染める真っ赤な彼岸花、空に浮かんでいるのはいわし雲。いつの間にかすっかり秋の風景に様変わりしています。

家族総出の稲刈りは子どもたちも頼もしい戦力です。お屋どきに棚田に腰かけ、ほおばる大きな塩むすび（おにぎり）のおいしさはまた格別の味でしょう。

●表紙：棚田の稲刈り
はら ふみ(イラストレーター)

※「めぐり〜ど」は、「愛媛農業（Agriculture）」を「リード（Lead）する」という意味と「心をつなげる（Agreed）」という意味を込めています。

農の風景Vol.200

愛媛の酒蔵めぐり②⑤～川亀酒造合資会社

2

〈特集〉

温州みかん出荷販売対策と消費宣伝計画

高品質果実の計画出荷、
需給調整対策、効果的な
消費宣伝活動を展開します。

6

トピックス

「第30回 全国クリ研究大会 愛媛県大会を開催」

7

JA全農えひめグループ7社 平成29年度役員体制
／JA新トップ紹介

8

THE・ねっとわーく

10

ふるさと ESSAY VOL.268

水田～屋根のない博物館～
高市 俊次さん

12

TOPIC NEWS

15

統計BOX

16

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉 麦みそ

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画
<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimemosyoku/>
※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料
<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)
<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)
<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)
<http://fresh-ranran.jp/>

◆(株)ひめライス
<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)
<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

高品質果実の計画出荷、需給調整対策、効果的な消費宣伝活動を展開します。

平成29年産温州みかんの生産予想量は、全国（9月1日時点の日園連主産県調査）で約75万トン（前年比93%、27年比96%）、愛媛県（9月1日時点）は約12万2,140トン（前年比96%、27年比101%）が見込まれています。また、県内JAの露地みかんの出荷計画量（9月20日時点）は、5万1,220トン（前年比102%、27年比103%）となっています。

今回は、29年産温州みかんの出荷販売対策と消費宣伝計画を紹介します。

29年産温州みかんをめぐる情勢

平成29年産温州みかんの生産予想量は、日園連の9月1日時点の主産県調査によると全国で75万トン程度（前年比93%、27年比96%）、愛媛県は12万2千トン程度（前年比96%、27年比101%）で、適正生産量（全国87万トン、愛媛14万2,020トン）を下回ることが予想されます。

しかしながら、依然として園地によるバラツキもあり、今後は需要量に見合った適正果対策を徹底し、高品質果実生産対策に取り組むことが重要です。

本年産露地みかんの品種別の全国生産予想量は、日園連調査（9月1日時点）によると、極早生12万9千トン（前年比102%）、早生29万7千トン（前年比96%）、普通30万7千トン（前年比88%）となっ

ています。本年の露地みかんは表廻りでありながら、全国的に着花量が少なく、生理落果は一次落果がやや多めで、二次落果は少なかったものの、昨年比べて生産量が少なくなる見込みです。

早生みかんの販売価格を左右する極早生の生産量は、前年並の予想となつていますが、早生みかん以降の販売を有利に展開するためにも、栽培管理の徹底による高品質果実の生

品質基準

出荷時期	糖 度	酸 度
9月	9.0度以上	1.0%以下
10月	10.0度以上	1.0%以下
11月以降	11.0度以上	0.9%以下

※市場到着時目標とし、全国連の品質基準に準ずる

産に力を注ぐことが重要です。また、全果協かんきつ部会で協議決定した極早生みかんの結果樹面積10%削減目標は、本年が最終年となっております。必達に向けた取り組みが重要です。

早生以降については、生産量は前年を下回る状況となっておりますが、近年出荷計画と実績とのかい離がみられることから、正確な出荷計画の策定と市場別の販売動向を把握した出荷に努めるとともに、気象災害等により数量が減少する場合は迅速に産地情報を発信しなければなりません。

また、11月下旬の恒常的な売り悩みとともに、12月中旬以降の供給過剰による荷動きの停滞・価格低迷を回避するためにも、平成29年産露地みかんの出荷販売にあたっては、高品質果実の出荷を基本に出荷時の品質基準の遵守や計画出荷に努めるとともに、市場価格の維持を目的とした果実需給調整対策事業及び一般消費者を対象とした消費宣伝事業を有効活用し、次年度につながる販売対策を実施します。

販売具体策

【極早生みかん】

極早生みかんの販売は10月末終了を徹底します。ただし、やむを得ず11月に出荷するものについては、確実に糖度11度以上の品質が確保できるものに限定し早期に出荷を切り上げます。低品位果実の市場出荷の自粛、県域の価格維持対策として下等級品の市場隔離を図るため加工誘導対策事業（11月10日まで）に1、000トンを対象）を実施・有効活用します。また、全国産地と協調連携しカナダ向けに輸出し国内の価格維持を図ります。

【早生みかん】

早生の販売開始にあたっては、市場残荷量等の販売状況や品質状況を勘案したなかで開始します。11月下旬の恒常的な売り悩みを回避するため、市場別の販売状況を勘案し販売先の需要に応じた出荷に努めるとともに、スムーズな品種の切り替えを図ります。また、日量出荷量の平準化を図り、祝祭日および休市明けと11月2日、11月24日、11月30日は平常時の20%増以内に抑えます。

県域の価格維持対策として下等級品の市場隔離を図るため加工誘導対策事業（1月31日まで）に4、000トンを対象）を実施・有効活用します。

【普通温州みかん】

12月中旬以降の需要の落ち込みに対応すべく、自主調整を含めた機動力のある出荷計画を実施します。販売店では年末年始無休営業が常態化し、消費の平準化が進んでいることから需要量に応じた出荷を実施するとともに、年内に無理した出荷を行わずに年明け販売も視野に入れた出荷計画を策定します。また、年明け販売分は、品質低下のないように貯蔵管理の徹底を図ります。

1月末まで果実需給調整対策事業を継続します。

【各品種共通対策】

精度の高い出荷計画の策定と遵守に努め、産地状況の迅速な情報発信を行います。また、品質・階級基準を厳守するとともに、低品位果実は加工仕向け等の市場隔離を行います。

品種・系統の品質特性を踏まえた適期出荷を徹底します。早生の販売開始は、基本的に11月からとし、極



早生から早生への切り替えを明確にします。

11月～12月10日における水曜日の販売分は出荷停止とします。

◆対象日・11月1日・8日(休市)・15日(休市)・22日・29日、12月6日(休市)の合計6回

全果協10地域市場出荷計画の旬別前年比を指標として出荷計画を樹立するとともに、選果場ごとの出荷状況を的確に把握し、

市場出荷残量を踏まえた計画的な出荷を行います。また、生産指導部署との連携を密にし、選果・選別・出荷予措の徹底と10地域市場出荷計画を基準として、市場ごとに残荷量・未仕切等の販売状況を加味した出荷量を調整します。

需給調整に基づいた適正出荷量と特別出荷調整の対象期間(11月中下旬)におけるJA別出荷量を遵守するとともに、長期取引契約数量を

必達します。

緊急需給調整特別対策事業が発動された場合は、事業実施方針に基づき価格下落の主因となる恐れのある果実を加工原料に仕向けます。

【階級基準】

出荷階級は2L～S級とします。

【緊急時の対策】

「緊急需給調整特別対策事業」が発動された場合は全果協および県果協の実施方針に基づき実施します。市場価格の急落が懸念され、かつ市場在庫が増加傾向にある場合は、果実販売部会・販売情勢検討会等で協議し、緊急対策を実施します。

効果的な消費宣伝活動で愛媛みかんPRと販売拡大を

愛媛県産柑橘の販促および知識に習熟したSPレディによる販促活動を行い、さらなる愛媛みかんファンの獲得に努めます。販売力の高い店舗の設定や販売時期に強弱をつけるなど、販促のあり方について十分に精査して実施します。また、店頭販促を行うSPレディの研修会や産地訪問等を実施することで、愛媛県産

柑橘に対する知識をさらに深め、消費者の五感を通じて愛媛みかんの魅力を訴え、消費拡大を図ります。指定市場および関係取引先に対しては、生産・販売体制等の取り組みについて、産地の確かな情報を発信するため、セールスコンベンションを行います。

今年で15年目を迎える幼稚園児および保護者を対象とした「はじめてのみかんむき企画」等の食育活動を継続実施し、子どもたちに幼少期からみかんを食べる機会・環境を提供し、将来の消費を担う子どもたちに愛媛みかんの魅力発信・消費拡大を目指します。

愛媛みかん大使による消費宣伝・みかんキャンペーンについては、事業の内容を十分精査したうえで、効果的な活動を計画・実施し、愛媛みかんのPR・知名度向上を図ります。

◆消費宣伝事業内容

1. 全国果実生産出荷安定協議会

国産果実に対する消費者ニーズが高品質・少量多品目化するなか、「食生活指針」や「食事バランスガイド」に基づいた「日本型食生活」を推進し、果実摂取の重要性を訴



▲SPレディ産地研修会

店舗担当者へ生
者及び主要販売
指定市場関係
ベンション

消費者に「オ
レンジデー」、
「オレンジロー
ド」の認知度向
上を図るととも
に、愛媛県産柑
橘全体のPR及
び消費拡大を図
るため、効果的
なイベントを計
画・実施します。
3. 温州みかん
セールスコン
ベンション

今年で15年目を迎え、幼稚園・保
護者等からも好評の「はじめてのみ
かんむき」企画を継続して行います。
幼稚園児にみかんを自分で剥く行為
の啓蒙活動を行い、その保護者にも

産・販売・宣伝戦略等を理解してい
ただき、川上く川下が一体となった
体制づくりに取り組みます。
4. 店頭試食宣伝
愛媛みかんの売り場確保・販売数
量・売り上げアップを図るため、店
舗の状況にあつた販促を実施しま
す。また、シーズンを通じて愛媛県
産青果物の売り場を確保してくれる
「愛媛協力店」を設定し、愛媛果物
の情報発信と消費拡大を図ります。
5. 愛媛みかん大使による消費宣伝
今年で59代目となる愛媛みかん
(いよかん) 大使を任命し、県内外
でのキャンペーン等を通じて、愛媛
県産柑橘類の消費拡大に向けたPR
を実施します。また、みかんキャン
ペーンでは、東京・大阪等の大都市
に大使を派遣し、各種イベントへの
参加、マスメディア等を巡回訪問し、
愛媛みかんの季節到来・キャンペー
ンの実施を周知するとともに、イベ
ントの記事掲載等を通じた消費宣伝
の相乗効果を図ります。
6. 食育活動事業

リーフレット等を配布することに
より、健康情報の提供や幼稚園児
の健やかな発育には果物が重要な
役割を果たすことをアピールしま
す。そして日常生活の中で柑橘類
を食べることの習慣付けを行い、旬
のおいしい「愛媛みかん」を印象
付けて広範な消費拡大を図るとと
もに、愛媛柑橘全体のPRを実施
します。
7. SPレディ組織強化事業
愛媛産柑橘のより効果的な店頭
試食宣伝販売を行うために、SP
レディの組織強化を行います。温
州みかん研修会(100人研修会)
では、本年産柑橘類の生育状況・
作柄等の説明会を実施し、産地状
況等も把握してもらい産地と一体
感を持って販売できる協力体制を
強化します。また、本年度は2年
に1回開催しているSPレディ産
地研修会を実施し、収穫体験等を
通じて産地への理解を深め消費者
への愛媛産柑橘のさらなる魅力発
信を図ります。

求するため「毎日くだもの200ゲ
ラム運動」の普及啓発活動の実践、
安全・安心な国産果実全体のイメー
ジアップや話題性の醸成・提供、果
物の持つ栄養・効能・機能性の周知
および全国の果樹産地と一体となっ
た取り組みを行い、国産果実全体の
需要拡大を図ります。また、全国段
階・県段階・農協段階の役割分担を
明確化し、全国の果樹産地が協調し
た事業展開を図り、より効率的・効
果的な取り組み内容とします。
2. えひめ愛フード推進機構

産・販売・宣伝戦略等を理解してい
ただき、川上く川下が一体となった
体制づくりに取り組みます。
4. 店頭試食宣伝
愛媛みかんの売り場確保・販売数
量・売り上げアップを図るため、店
舗の状況にあつた販促を実施しま
す。また、シーズンを通じて愛媛県
産青果物の売り場を確保してくる
「愛媛協力店」を設定し、愛媛果物
の情報発信と消費拡大を図ります。
5. 愛媛みかん大使による消費宣伝
今年で59代目となる愛媛みかん
(いよかん) 大使を任命し、県内外
でのキャンペーン等を通じて、愛媛
県産柑橘類の消費拡大に向けたPR
を実施します。また、みかんキャン
ペーンでは、東京・大阪等の大都市
に大使を派遣し、各種イベントへの
参加、マスメディア等を巡回訪問し、
愛媛みかんの季節到来・キャンペー
ンの実施を周知するとともに、イベ
ントの記事掲載等を通じた消費宣伝
の相乗効果を図ります。
6. 食育活動事業

リーフレット等を配布することに
より、健康情報の提供や幼稚園児
の健やかな発育には果物が重要な
役割を果たすことをアピールしま
す。そして日常生活の中で柑橘類
を食べることの習慣付けを行い、旬
のおいしい「愛媛みかん」を印象
付けて広範な消費拡大を図るとと
もに、愛媛柑橘全体のPRを実施
します。
7. SPレディ組織強化事業
愛媛産柑橘のより効果的な店頭
試食宣伝販売を行うために、SP
レディの組織強化を行います。温
州みかん研修会(100人研修会)
では、本年産柑橘類の生育状況・
作柄等の説明会を実施し、産地状
況等も把握してもらい産地と一体
感を持って販売できる協力体制を
強化します。また、本年度は2年
に1回開催しているSPレディ産
地研修会を実施し、収穫体験等を
通じて産地への理解を深め消費者
への愛媛産柑橘のさらなる魅力発
信を図ります。

産地の活性化による魅力あるくり栽培を目指して！

第30回 全国くり研究大会 愛媛県大会を開催

全国のくり生産者・関係者が一堂に会し、「第30回全国くり研究大会 愛媛県大会」（主催：全国果樹研究連合会・愛媛県くり研究同志会）を7月27日、28日、松山市ならびに伊予市で開催しました。本大会は全国のくり主産県で持ち回り開催しており、愛媛県での開催は平成16年以来13年ぶり4回目の開催となりました。



1日目の研究大会は、松山市の子規記念博物館で開催。愛媛県ならびに全国のくり生産者・関係者約400人が参加しました。愛媛県くり研究同志会の大野奉孝会長は「近年のくりの販売単価は高水準であるものの、栽培面積の維持、生産量の確保対策が今後の最重要課題であると思います。本大会をきっかけに、我が国のくり産業がより一層発展するよう、生産者一同魅力あるくり栽培に取り組んでいきましょう」とあいさつしました。



▲全果連会長賞を受賞した松本文文さん（伊予市中山町）



▲産地事例発表をするJA愛媛たいきの東浩一さん

また、地域のくり産業の発展に寄与された生産者や部会に贈られる「全果連会長賞」の授与も行われ、伊予市中山町の松本文文さんが受賞しました。産地事例発表では、JA愛媛たいき宮農部宮農指導課の東浩一さんがJA愛媛たいきにおけるくり生産販売対策の取り組みを紹介したほか、研究成果発表では、愛媛県農産園芸課の金崎秀司さんが、立木でのIPM防除技術確立試験について発表しました。



▲伊予市中山町の山村園での視察

記念講演では、農研機構の齋藤寿広さんが「農研機構におけるくり育種の経過、現状と展望」、兵庫県立農林水産技術総合センターの水田泰徳さんが「凍害の危険度判定と対策で優良品種の導入促進を！」と題して講演しました。2日目の産地視察では、県外からの参加者約150人が参加。JAえひめ中央中山支所管内の三ツ井守恵さんと山村信昭さんの園地を視察しました。

JA全農えひめグループ7社 平成29年度役員体制

は29年度新任。

平成29年10月1日現在

(株)えひめ飲料		
役職名	氏名	
代表取締役社長	高原 茂	常勤
代表取締役専務	濱本 泰久	常勤
常務取締役	川田 永治	常勤
常務取締役	山本 卓治	常勤
常勤監査役	岡本 慎也	常勤

JAえひめアイパックス(株)		
役職名	氏名	
代表取締役社長	中原 一憲	常勤
常務取締役	森川 威久	常勤
常務取締役	中川 達也	常勤

JAえひめフレッシュフーズ(株)		
役職名	氏名	
代表取締役社長	大津 満	常勤
常務取締役	宇都宮 誠	常勤

(株)ひめライス		
役職名	氏名	
代表取締役社長	松田 一人	常勤
常務取締役	武田 司	常勤

JAえひめエネルギー(株)		
役職名	氏名	
代表取締役社長	峯本 耕典	常勤
常務取締役	宮田 研二	常勤

(株)えひめフーズ		
役職名	氏名	
代表取締役社長	森實 光夫	常勤
取締役管理部長	丸山 茂	常勤

JAえひめ物流(株)		
役職名	氏名	
代表取締役社長	清水 宇造	常勤
常務取締役	白石 啓司	常勤

前号で予告していた内容から一部変更して掲載します。

JA新トップ紹介

- 略歴
- ・昭和27年生まれ
 - ・平成19年JAひがしうわ監事(非常勤)
 - ・平成22年JAひがしうわ監事(常勤)
 - ・平成28年JAひがしうわ代表理事専務
 - ・平成29年JAひがしうわ代表理事組合長



なかむら
中村 吉年

代表理事組合長
(平成29年8月28日就任)

JAひがしうわ

THE

ねとわーく

愛媛産柑橘を全国にPRする 『2017愛媛みかん大使』を任命

果実課

J A全農えひめは、8月24日、松山市のJ A愛媛で、愛媛みかん・伊予柑など愛媛産柑橘をPRする『2017愛媛みかん大使』4人を任命しました。

①一色涼花(いっしきりょうか)さん(21歳)松山市在住(大学生)、②佐野梨夏(さのりか)さん(19歳)大洲市在住(団体職員)



▲(右から)一色さん、佐野さん、小越県本部長、菅野会長、藤田さん、松村さん

体職員)、③藤田茉倫(ふじたまりん)さん(21歳)松山市在住(大学生)、④松村祐莉愛(まつむらゆりあ)さん(20歳)松山市在住(大学生)の愛媛みかん大使による活動は、1959年度から始めており、今年度の大使は59代目。今回は87人の応募があり、書類と面接による審査を経て大使4人が選ばれました。任命式では、J A全農えひめ運営委員会の菅野幸雄会長が4人に任命状を渡し、「愛媛県を代表し農家の想いを全国の皆様に伝え、愛媛みかんをPRしてほしい」と激励。前年の大使から「タスキを受け継いだ4人は、「愛媛産柑橘の魅力是全国の皆さんにしっかりとPRしていきたい」と笑顔で抱負を話しました。

の「愛媛みかんは、11月上旬からトーンアップのほかに各種イベントや販促活動、テレビ出演などを通じて、来年8月末まで1年間愛媛産柑橘をPRします。応援よろしくお願ひし

2017愛媛みかん大使プロフィール



いっしきりょうか
一色 涼花さん

(松山市在住・大学生)

【趣味】歌うこと、読書、サッカー観戦

【特技】歌うこと、笑顔でいること

【抱負】歴史ある愛媛みかん大使に任命していただき大変光栄に思います。農家の方々の気持ちを背負い、その代弁者として、一人でも多くの方に大好きな愛媛みかんの魅力をお伝えしたいです。持ち前の笑顔と真面目さを活かし、責任を持って誠心誠意努めます。



さのりか
佐野 梨夏さん

(大洲市在住・団体職員)

【趣味】音楽鑑賞、バスケット

【特技】剣道

【抱負】愛媛みかんの魅力を、もっと沢山の皆さんに知っていただきたいと思い応募しました。大使に選んでいただき、とても光栄です。農家の方々が丹精込めて作られた美味しい愛媛みかんを1人でも多くの方々に知っていただけるよう頑張ります。



ふじたまりん
藤田 茉倫さん

(松山市在住・大学生)

【趣味】クラシックバレエ、カフェ巡り

【特技】書道

【抱負】歴史ある愛媛みかん大使に任命して頂き大変光栄です。生産者と消費者の架け橋となり、農家の方々が丹精込めて作った愛媛みかんの魅力を全国へPRしていきます。たくさんの方に愛媛みかんのファンになって頂けるよう誠心誠意努めてまいります。



まつむらゆりあ
松村祐莉愛さん

(松山市在住・大学生)

【趣味】読書

【特技】書道、水泳

【抱負】農家の方々が丹精込めて作られた、愛媛みかんの魅力を、1人でも多くの方にお伝えできるよう、1年間責任を持って、笑顔でPRしてまいります。活動を通して、大好きな愛媛県がより活性化されるように頑張りますので、よろしくお願ひします。

「JAグループ農畜産物消費拡大運動展開中！」

生活資材課

JAグループ愛媛農畜産物消費拡大推進本部は、来年1月末まで、「JAグループ愛媛農畜産物消費拡大運動」に取り組んでいます。

お口の健康を考える乳酸菌「8020菌」を使用したヨーグルト2種類・19個の乳製品をセットにした「らくれんセレクトシヨソセット」(2,000円)、「道後赤たまごプリン」や「愛ある生乳ヨーグルト」など、らくれん製品から厳選したバラエティーセットの「牧場の風セット」(2,200円)、クリームチーズサンドとレアチーズケーキをまとめてセットにした「クリームチーズセット」(2,200円)、レアチーズケーキ3種・15個をセットにした「レアチーズケーキセット」(2,200円)の4アイテムです。(価格は全て税込価格)

県内産を中心とした「畜産加工品」愛用も推進中

JA全農えひめ生活資材課では、来年2月末まで、愛媛県内産牛・豚肉の地産地消を通じて地域農業の振興を図ろうと、「食肉加工品」の取扱い・消費拡大を推進中です。

取扱商品(セット)は、伊予牛「絹の味」、「ふれ愛・媛ポーク」の精肉セット各3アイテム、レトルトのカレー、愛媛県産豚肉を使用した「豚バラやわらか角煮」、「豚ロース豚井」 「ロースハム・ベーコンスライスパック」、国産豚肉を使用したウインナー、さらには新アイテムとして塩みそ、キムチ味の「愛媛・信州豚モツセット」などの多彩なアイテムをご用意しております。この機会にぜひご賞味・ご注文ください。

愛用運動商品と食肉加工品のご注文・お問い合わせは、最寄りのJAまたはJA全農えひめ生活資材課(TEL089-905-2715)までお願いいたします。

「サンキュー米ベイベイ」新米キャンペーン実施中！」

(株)ひめライス

(株)ひめライスは、県内産を中心に新米の発売をアピールしようとして、8月23日から10月31日まで、新米キャンペーンを実施しています。キャンペーン名称は、「サンキュー米ベイベイ」。「伊予牛」「絹の味」黒毛和牛焼肉用約500g「ふれ愛・媛ポークしゃぶしゃぶ用ロース1kg」「紅まどんな」などが計1,000人に当たります。

期間中は、テレビCM、ポスター、リーフレット・新聞広告などを通じて積極的にキャンペーンPR活動を展開。「愛媛の新米」を味わってもらい、県内産米の消費拡大と『ひめライス』ブランドの強化を図ります。応募方法など詳細は、販売店のポスター・リーフレット、(株)ひめライスのホームページでご確認ください。

ひめライス
サンキュー
米ベイベイ

えひめのみんな
ありがとう!

新米
おめでとう!

ひめライス
新米キャンペーン
2017.8.23-10.31

えひめのみんなさまに、ありがとうの気持ちを込めてプレゼント!

合計 1,000名に当たる!

Wチャンス
820,000円当たる!

A コース
おひつ即席

B コース
Cook 4me

C コース
伊予牛「絹の味」

D コース
ふれ愛・豚ホーク

E コース
紅まどんな

TEL.089-960-3331



水田

屋根のない博物館

小学生の頃、「農繁休暇」といって、田植えや稲刈りで忙しい時期、一定期間学校が休みになっていた。戦前からあった制度である。

低学年は苗を運んだり、刈り取った後の稲束を運んだりする仕事为主であった。少し年長になると、今度は苗の植え方や、鎌を持って稲刈りの仕方を教わることになる。

昭和三十年代後半になると、農繁休暇制度もしだいになくなったが、それは日本経済の高度成長期と符合している。

水稲作の動力源が、それまで主役であった牛馬から小型耕耘機に替わり、農業の機械化も急速に進展した。「メリーテラー」という、戦後アメリカから導入された小型耕耘機の名称は、子供心にも、新しい農業を象徴するような、新鮮な響きを感じられたものだった。

私が子供の頃は、まだ明治生まれの、

篤農家と言われる老人たちがたくさんいた。彼らは長老として、村の催事や神事を取り仕切っている、物知りでもあった。

その一人に、日露戦争に従軍した経験を持つ老人がいた。当時、もう八十歳近い年齢であったと思われる。

小柄な人であったが、土と水に寄せる思いは、切実であった。朝夕、畦塗りに自分で工夫したらしい柄の短い鋤を持って、田回りをするのが日課であった。

雨上がりの時など、排水溝から水を抜いたり、畦の水漏れなどの点検に余念がなかった。私は、この老人の後について、よく歩いた。

今思うと、田植えから稲が成長するまでの水管理のためだったのだろう。水口から田圃に水を引くのだが、深すぎても、稲は伸び痩せする。田面が出てしまうほど浅いと、今度は成長が止まり、雑草が生えて、余分な草取りの

高市 俊次

SHUNJI TAKAICHI

昭和23年12月18日生まれ、伊予郡砥部町出身。早稲田大学教育学部国文科卒業。元高校教師。昭和59年、郷土俳人の交流を描いた作品「花評者石山（はなひょうしゃせきざん）」で、第9回歴史文学賞受賞。その後、神官であり書家として著名であった「三輪田米山（みわだべいざん）」の生涯を、「歴史読本」に連載し、昭和62年、新人物往来社より「瓢壺（ひょうこ）の夢（ゆめ）」と題して単行本化。平成元年、花にまつわる34の掌編をまとめた「花鎮（はなしず）め」で、第4回愛媛出版文化賞受賞。平成28年、ロシア兵墓地の顕彰に後半生を費やした、才神時雄とその妻を描いた「千年の墓標」（執筆名は三島麻緒）で、第3回晩成文学賞（平凡社）受賞。



▲収穫間近の田圃で

手間が増える。

私が育ったところは、一級河川の重信川がすぐ近くに流れていたが、老人は田回りの歩みを止めると、ここは籠田だとか、込田だとか、呟くように言っていた。

それは、ホノギと呼ばれている小字地名であったが、籠田は、河川敷だったところを田に起こした土地で、田の底は砂礫であった。だから、いくら水

を引いてもすぐに抜けてしまうから、その名がついたのだという。込田は、すぐに水に浸かる田圃のことであった。

後年、地名語源に興味を持ち、「ホノギ」について調べることがあったが、老人の言っていたとおり、地味を表す言葉が多かった。

澄んだ青空の映った水田は、私にとって屋根のない博物館のようなもの

だった。水生生物である、ヤゴ・ゲンゴロウ・タガメ・カエル・イモリ・カワニナ・ドジョウなどを、身近に観ることができた。

道にかがみ込んで、畦草の名前を覚えてくれたのも、その老人であった。それ以来、私は畦道に立ち止まって、草花を手に取ることが多くなった。

ある時は、私を村境の小高い山に連れて行った。山上から、田の畔筋を見ろということであったが、老人が言ったのは、なぜ畦に歪みが生じたのかということであった。

狭く歪曲した畦が生まれた理由もまた、農に携わる人たちの、わずかな実りに対する根強い執着からであった。

現在、私が生まれ育った農村も、大きく様変わりしている。自然環境はもちろん生活、価値観においてもそうである。

現在、高齢化社会と言われるが、いつの時代にも、その一生において豊かな知恵、経験、技術を蓄えてきた老人はいた。江戸期における大老、老中、年寄、若年寄、家老などの役職名が、それを物語っている。

よく頭を撫でてもらったが、今もその老人の陽に焼けた顔と、ぶ厚い掌の感触を思い出すことができる。(了)

●第18回JA愛媛米麦生産者組織協議会通常総会 需要に応じた生産と品質向上を！

JA愛媛米麦生産者組織協議会は、7月26日、松山市で、「第18回JA愛媛米麦生産者組織協議会通常総会」を開きました。

総会には、会員20名の他、県やJA等関係者41名が出席し、平成28年度事業報告、29年度事業計画・予算計画等を審議し、承認されました。

水稲においては、生産数量目標（14,527ha）の確実な生産を行うとともに、「売れる米づくり」に向けて需要に応じた作付誘導と品質向上に取り組むこととし、28年度食味ランキングで「特A」評価を得た「にこまる」については、「特A」評価の連続取得を目指します。

麦においては、30年連続生産量日本一を誇るはだか麦を中心に、はだか麦1,800ha、小麦200haを目標に作付するとともに、実需者の要望に応えていくため単収を向上させて、安定的な供給体制を確立していきます。また「ハルヒメボシ」については、順次種子を確保しながら切り替えを進めていくことを確認しました。



●愛媛県民間流通地方連絡協議会 30年連続日本一のはだか麦の安定供給を！

JA全農えひめ食糧生産課は、7月26日松山市で愛媛県産麦の円滑な流通をめざし、愛媛県民間流通地方連絡協議会を開きました。

会議には、精麦や製粉、醤油・味噌関連の実需者14社・組合と生産者・JA・県関係者ら44人が出席。29年産麦の販売見込数量や30年産麦の販売予定数量を確認するとともに、愛媛県産麦に対する意見交換を行いました。

愛媛県産はだか麦は、30年連続生産量日本一（28年産実績）となりましたが、30年産においては生産者の販売予定数量4,654tに対し、実需者からは倍近い8,157tもの購入希望をいただいています。そのため、実需者からは需要に応じた数量確保と安定供給を求める声が多く出されました。

こうした中、JA全農えひめ・愛媛県米麦振興協会では、これらの実需者ニーズに対応していくために更なる面積の拡大と単収360kg/10a以上の

実現を目指していくとともに、有望品種の「ハルヒメボシ」への品種転換を計画的に進めることにしています。

小麦は、30年産販売予定数量505tに対して購入希望数量は531tとなっています。

愛媛県農林水産研究所からは、愛媛県産麦の課題および今後の対応策等について説明があり、生産者、JA、関係機関が連携して取り組んでいくことを確認しました。

なお、29年産は、はだか麦の集荷数量は4,340t（前年比129%）。1等比率は97%。小麦は集荷数量620t（前年比142%）となりました。



●愛媛県米麦振興協会 はだか麦30年連続生産量 日本一を祝して記念大会を開催

愛媛県産はだか麦は、平成28年産をもちまして30年連続生産量日本一となりました。これを祝して、愛媛県米麦振興協会は7月26日、松山市で「はだか麦30年連続生産量日本一記念大会」を開催し、生産者・実需者、JAなどの関係者約60人が参加しました。

記念大会では、愛媛県東予地方局今治支局の兼頭室長から「はだか麦生産量連続30年日本一、次の10年に向けて」と題した記念講演があったほか、会場では愛媛県産はだか麦を使用したお菓子や味噌、飲料などの商品の展示がありました。また懇親会では、はだか麦を使用した料理や飲料が振る舞われました。



記念講演をする愛媛県今治支局兼頭室長

●第11回全国和牛能力共進会愛媛県代表壮行会 宮城全共に向け出品者を激励！

公益社団法人愛媛県畜産協会は9月4日から宮城県で開かれた第11回全国和牛能力共進会（宮城全共）を前に、西予市野村町畜産総合振興センターで壮行会を開催しました。県やJA、関係機関などから約70人が集まり、各区の出品者を激励しました。愛媛県は、2区（若雌の1）から1頭、9区（去勢肥育牛）から2頭出場しました。

5年に1度開催の「和牛のオリンピック」と言われている同共進会は、9月7日から11日、宮城県仙台市で開催されました。愛媛県代表牛の結果は次の通りです（敬称略・カッコ内はJA名）。

▽2区（若雄の1）
1等賞4席＝「さかえ」角藤幸男（ひがしうわ）▽9区（去勢肥育牛）優等賞28席＝「花百合」関平畜産（同）、9区（去勢肥育牛）2等賞＝「桜道」高橋宏明（同）



2区代表の「さかえ」と角藤夫妻

●JA農業サポート実践会議

信用・営農部門が連携し農業者の所得増大を支援！

J A全農えひめなどで構成するJ Aグループ愛媛担い手サポートセンター連絡協議会は、7月10日、松山市のJ A愛媛で「J A農業サポート実践会議」を開きました。会議には、J Aの担い手対応を行うTAC・営農・信用部門の担当者など66人が出席。事業間連携による農業経営支援機能を発揮し、農業者の所得増大につなげる重要性を確認しました。

当日は、参加者が7班（米麦野菜部門4班・果樹部門3班）に分かれてグループワークを実施。担い手の所得増大に向けて、J Aの総合力を発揮し営農・信用部門が一体となって、作物提案や融資も含めた提案内容の検討を話し合う

とともに、5年先・10年先を見据えた提案内容シートと経営改善計画表を作成し発表しました。

参加者からは、普段関わりの少ない分野が学べる良い機会となり、営農と信用部門の連携の大切さを改めて確認できたとの意見が多数ありました。



●愛媛県肉用牛振興協議会青年部会「伊予うし若人会」 若手肉用牛生産者が 伊予牛「絹の味」をPR

愛媛県肉用牛振興協議会青年部会「伊予うし若人会」は、7月29日、東温市の「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」内「全農のお肉屋さん」特設テントにて、伊予牛「絹の味」の試食会、「生産から出荷までの過程」が描かれたパネル展示や、「命の大切さ」と題した紙芝居などを行いました。

青年部会「伊予うし若人会」は、愛媛県内の若手肉用牛生産者や後継者で構成されており、地域の垣根を越えた交流を深めることにより、経営、技術の向上を図ることを目的に年に2回、研修会を開催しています。

今回は、生産者の立場を通じて消費者に直接、愛媛のブランド肉、伊予牛「絹の味」の美味しさや安心安全についてアピールしました。

池田一成会長は「後継者不足の中でも、みんなと一緒に愛媛の畜産を盛り上げていきたい」と話していました。



来店者にパネルの説明をする生産者

●(株)えひめ飲料が松山東交通安全協会に贈呈 交通安全運動に「POM塩 と夏みかん」を役立てて！

(株)えひめ飲料は、秋の全国交通安全運動（9月21日から9月30日まで）の啓発活動に役立ててもらおうと、8月28日、「POM塩と夏みかん」（200ml紙パック）1,000パックを松山東交通安全協会に贈りました。

贈呈商品は、交通安全運動期間中に、松山東警察署管内で実施される「交通茶屋」や「高齢者教室」などの各種イベントで、交通事故防止のチラシや反射板とともに配布・活用されました。

松山市安城寺町の(株)えひめ飲料本社で行われた贈呈式では、同社の高原茂社長が同協会の清水一郎会長に商品と目録を手渡しました。清水会長からは、「交通安全運動で活用させていただきます」とお礼の言葉がありました。

同社によるPOM製品の贈呈は、社会貢献活動の一環として平成22年から毎年実施しています。



清水会長(右)に商品を贈呈する高原社長

●カントリーエレベーター及び農業倉庫保管管理研修会 米の品質事故防止強化を！

J A全農えひめ食糧生産課は、7月28日、松前町のJ A愛媛農業技術センターで、「カントリーエレベーター及び農業倉庫保管管理研修会」を愛媛県では初めて開催し、各J A担当課長・担当者ら20名が研修を受けました。

今回の研修会は近年、食の安全・安心への関心が更に高まっている中、米麦の保管管理環境については高度な品質管理が求められています。そのため、8月からの米の集荷の前にカン

トリーエレベーター、ライスセンター、農業倉庫の適切な保管管理について学び、品質事故を防止する目的で開催しました。

研修会では、農業倉庫基金や国際衛生株式会社から外部講師を招き、カントリーエレベーターや農業倉庫における品質事故防止策、保管管理、貯蔵穀物害虫・鼠の生態・防除等について知見を深めました。

●JAえひめフレッシュフーズ(株) バドミントンの若手選手育成に貢献 ～ジュニア県予選会に冠協賛

「第2回フレッシュ卵卵カップ 第36回全日本ジュニアバドミントン選手権大会愛媛県予選」が、8月8日松山市の愛媛県総合運動公園体育館で開かれ、9月15日から群馬県で開催された全国大会の出場をめざし熱戦を繰り広げました。

大会は、中学生を含む高校2年生以下のジュニアの部（シングルス・ダブルス）、中学2年生以下のジュニア新人の部（シングルス）に分かれて男女別で行われ、計185人の選手が日頃の練習成果を競いました。

昨年からジュニア選手を育成する同大会に特別協賛しているJAえひめフレッシュフーズ(株)は、参加賞のほか各クラス優勝者全員に「紅花卵卵」など卵30個と「親鳥の炭火焼き」、たまごかけごはん専用醤油が入った「卵かけごはんセット」を贈りました。また、会場内では(株)えひめ飲料が熱中症対策として出場選手に「POM塩と夏みかん」を提供しました。



ジュニアの部シングルスで優勝した新居浜東高2年の近藤さん(右)と新田高1年の鎌田さん

●「いよっころ」親子農業体験ツアー 親子で大根や梨の 収穫体験を満喫

JAえひめアイパックス(株)ファーマーズマーケット「いよっころ」運営協力会は、力を入れている食農教育活動の一環として、8月26日、西予市野村町大野ヶ原と伊予市中山町を回る「親子農業体験ツアー」を実施しました。

このツアーは、収穫体験等を通じて農業や食の大切さ、地元農産物の美味しさや魅力を伝えようと毎年開催しており、今年で9年目。

今回のツアーには、伊予市近郊の親子11組・29人が参加。標高1,000mを超える四国カルスト・西予市野村町大野ヶ原の黒河正高さんの畑で、大根を収穫しました。黒河さんから栽培の状況や「大根が折れないようにまっすぐ上の方へ抜いて」というアドバイスを受け、子どもたちは力を込めて大根を引き抜き、「やったー。大きいのがとれた」と大きな歓声をあげていました。一行は、伊予市中山町でも梨狩りを楽しみました。



●(株)ひめライス協賛「第41回テレビ愛媛杯 愛媛県ママさんバレーボール大会」 「生石クラブ」優勝！ひめライスは ママさんバレーを応援！

(株)ひめライス協賛「第41回テレビ愛媛杯愛媛県ママさんバレーボール大会」が、8月27日、西条市総合体育館で開かれ、強豪の生石クラブ(松山市)が5回目となる優勝を飾りました。

大会には県内40チームの中から東・中・南予の各地区予選を勝ち抜いた16チームが参加。選手たちは家族の声援を受けながらレベルの高い熱戦を展開しました。

(株)ひめライスは、スポーツ振興を通じた健康で明るい家庭づくりに貢献しようと、同大会に毎年協賛。今回も3位以内の上位4チームのメンバー全員に新米無洗米『あらうまい愛媛県産コシヒカリ』と(株)えひめ飲料提供のポンジュースセットを、参加者全員にお米とひめライスグッズをプレゼントしました。

会場では、元全日本代表の斉藤真由美さんらによる「ちびっ子バレーボール教室」もおこなわれ、大会を盛り上げました。



優勝を喜ぶ生石クラブのメンバー

●JAえひめフレッシュフーズ(株) 新規直営鶏舎「卵卵中 野ファーム」竣工式と 落成記念式典を開催

JAえひめフレッシュフーズ(株)は、松山市の中予地区新規直営鶏舎「卵卵中野ファーム」建設予定地とJA愛媛ビルで9月13日、関係者約50人が集まり、竣工式と落成記念式典を開催しました。同農場は、10月2日から生産開始を予定しており、平成30年7月の完成を見込んでいます。

落成記念式典では、JAえひめフレッシュフーズ(株)大津満社長が「この新農場が県内採卵養鶏の生産体制の強化に繋がるように役職員一丸となって取り組んでいきたい。」とあいさつしました。



あいさつをする大津社長

統計BOX

減少した田や畑耕地はどこへ —作物統計調査「耕地及び作付面積統計」から—

図1 田畑別 耕地面積の動き (平成9年・28年)

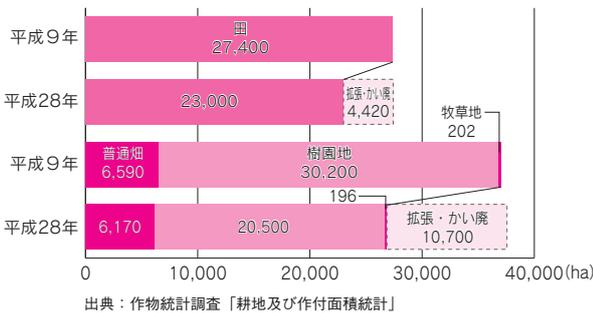


図2 田の拡張・かい廃内訳 (平成9年～28年)

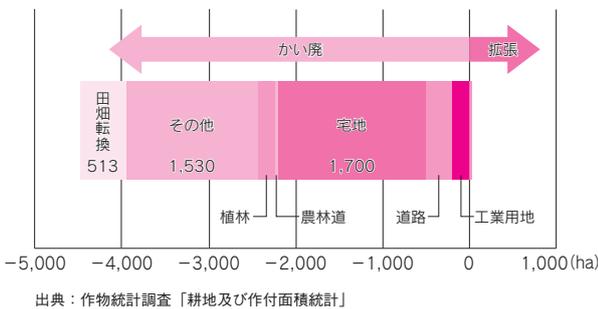


図3 畑の拡張・かい廃内訳 (平成9年～28年)

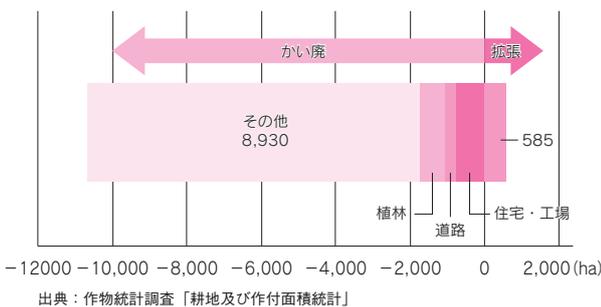
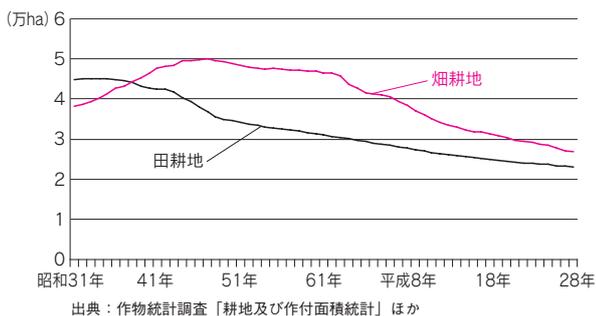


図4 田畑別 耕地面積の動き (昭和31年～平成28年)



田耕地減少のおよそ4割は宅地等へ

図1で平成9年と28年の田畑別耕地面積を比較してみました。田は、20年間でおよそ4,420ha(16%)

農 水省には、古くは明治時代からの農業関係の統計が保存されていますが、耕地や作物、家畜等の統計データを年代毎に追っていくと、世の中の動きが垣間見えます。たとえば昭和30年代初頭、農業の機械化の黎明期以前には、愛媛県ではおよそ7万戸の農家で7万頭余の牛が役牛として飼われていました。また、高成分化成肥料が出回る40年前後から、水稻の単収は飛躍的に伸びてきています。近年は、耕地の減少が続き、なかでも耕作放棄地が取りざたされています。今回は、その耕地面積と耕地の拡張・かい廃面積について見てみましょう。

畑の減少は荒廃農地が主体

一方畑は、昭和30年代から40年代後半にかけて、普通畑や田からの転換や開墾により、収益性の良かったみかんなどのかんきつ類が植栽され、畑面積は増加しました。その後、生産過剰、グレイプフルーツやオレンジの輸入自由化などの時代を経て、かんきつ類の栽培面積の減少に合わせ畑面積も減少しました(図4参照)。

減少してはいますが、その内訳を図2で見ますと、田から畑への転換による減少が513ha(かい廃面積の12%)あるものの、ほとんどが人為的なかい廃で、1,700ha(同38%)が宅地に転用された外、道路、工場用地などのインフラに転用されています。また、その他が1,530ha(同35%)となつていますが、そのほとんどが荒廃農地(非耕作放棄地)となつてはいます。

中国四国農政局愛媛支局 統計チーム

ここ20年間では、37,000haから26,900haへと10,100ha(27%)減少しています(図1参照)。その内訳を図3で見ますと、田からの転換や開墾で595haの増加がありますが、10,700haのかい廃面積のうち8割以上(8,930ha)がその他の荒廃農地です。愛媛県は、田において山間部、傾斜地といった条件不利地が植林されたり荒廃農地になる一方、都市近郊では宅地や道路・工場などの社会インフラへ転用が図られ、畑においては条件不利地の樹園地を中心に、荒廃農地となり減少したものと見えます。改めて図4で昭和31年から平成28年の動きをみると、田は36年の高度成長のさなかに、そして畑は、高度成長が終焉を迎える48年から減少に転じている様子が窺えます。



● えひめ飲料の取り組みを知り、柑橘農家としてとても嬉しく思いました。早速、「河内晩かんゼリー」を太陽市で買って飲んでみました。冷やして飲むとどろどろがよくて美味でした。箱ごと24本買いました。紙パックで重くならない「アシタノカラダ」はプレゼント用に購入したいです。
(松山市・一色 加代子さん)

● 特集を読んで。「アシタノカラダ」良いネーミングですね。歳をとっていく中で、体が元気なことが一番だと実感しています。明日が元気なら、次の日も、その次の日もと、今後の人生のはりになるような商品名だと思います。
(松前町・田中 克也さん)

● えひめ飲料がえひめ国体・えひめ大会のオフィシャルサプライヤーとしてみかんジュースの提供を行うとのこと。私も、大会期間中は、テニスの審判員として参加します。全国各地の方にえひめ飲料の商品をおすすめしたいと思います。
(松山市・竹村 洋子さん)

● エッセーを読んで。子どもの頃、焼米の甘さ、香り、食感を楽しんだ一人です。ポケットの中は焼米だらけで大事に大事に食べていた記憶があります。頂き物の容器にマッチ3本程入れて返すのは私の役目。今思えばマッチも貴重な時代でしたね。以前、広島で焼米を見かけて思わず購入。懐かしい味を楽しむ事ができました。私の周りでは、「おため」ではなく「おたみ」と言っていました。
(今治市・田村 恵美子さん)

● エッセーを読み、幼い頃、祖母に焼米を作ってもらって食べたことを思い出しました。とても懐かしい気持ちになりました。今は甘くて美味しいお菓子がたくさんあります。たまには、こういう焼米のような素朴なお菓子を食べるのもいいのではないのでしょうか。
(松山市・松本 恵子さん)

● 「酒蔵めぐり」を読んで。原料、製造工程だけではなく、紙ラベルにまでこだわり抜いた逸品。決して機械では再現することができない、職人の一杯を旧友と舌鼓を打ちながら、ないしよばなしに花を咲かせたいと思う所存でございます。
(今治市・窪田 貴大さん)

● 毎年、「えひめスイーツコンテスト」を楽しみにしているのですが、今年は和菓子部門が新たに出来てより楽しみです！ みかんやキウイなど愛媛の特産品がどのような素敵な作品になるのか今からわくわくしています。
(大洲市・浜江 和子さん)

● トピックニュースでは、様々な品目の総会や品評会が行われており、私の地元の方がたくさん表彰されていました。とても嬉しく思います。日々の努力の積み重ねがこういう結果に繋がるのだらうなと思います。
(大洲市・矢野 吉信さん)

● 愛媛愛フード推進機構では、海外への輸出促進などの取り組みも行っているんですね。紅まどんな、甘平、せとか、どれも「愛」ある愛媛の特産品です。愛媛の食品が世界の人々を笑顔にしている様子が目に浮かびます。
幹椎茸品評会、成高さん9年連続最優秀賞受賞！ 一口に9年と言いますが、大変なことだと思えます。成高さんの日々の努力の賜ですね。
(今治市・阿部 徳子さん)

【訂正とお詫び】

本誌、2017年度8-9月号に掲載の下記につきまして誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。
◆P7「グループ会社常勤 役員の人事異動について」J A えひめフレッシュフーズ(株)の囲み部分 (誤) 西 尊公 (正) 西 尊公
◆P12上方囲み本文21段目 (誤) 部会員は58人に増加。 (正) 部会員は58人増加。
◆P12上方囲み本文22段目 (誤) 958万円 (正) 9,580万円

今月のクイズ

（株）ひめライスは、今年も新米キャンペーンを実施中です。今年のキャンペーン名称は？

「○○○○米ベ〜」

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り

平成29年11月20日（当日消印有効）

発表表

「あぐり〜ど」12-1月号で発表します。

当選者発表

8-9月号の答えは「アシタノカラダ」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10の方に図書カード1,000円分をお送りします。

- 石村てるみさん（四国中央市） 村上ゆかりさん（今治市）
- 越智 節美さん（今治市） 永井 民枝さん（西条市）
- 山内 忍さん（伊予市） 徳永 舞さん（西条市）
- 山田八重美さん（宇和島市） 吉田 徳好さん（内子町）
- 菅 隆子さん（今治市） 玉井 一枝さん（西条市）

編集後記

★今月号のエッセーですが、高市さんが収穫間近の田圃で稲穂を見つめる写真、実はこれ我が家の田圃です。実家では、米、麦、野菜を作っておりました。9月に入ると自宅の周りが黄色く色づいてきた稲でいっぱいになります。「あ〜夏も終わったな」と感じるのと同時に美味しい新米がもうすぐ食べられる！と考えるだけでよだれがでます。食欲の秋…わくわくしますね。あ、食べてばっかりいないで、スポーツの秋も頑張ります（汗）。

（有紗）



NOW NOW

COOKING

今月の素材
麦みそ



豊かな麦の香りと旨味と、
ほんのり甘い、懐かしの味

▶ (右) 蒸し野菜みそディップ、(後) サバのみそ煮、(左) 豚バラとキノコのみそ炒め



指導/学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大佐古 正子先生

豚バラとキノコのみそ炒め

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約256kcal

豚バラ肉 (スライス)	160 g
カボチャ	80 g
エリンギ	1パック (約100 g)
シイタケ	6枚
ニンニク (スライス)	1かけ
サラダ油	大さじ1
輪切り唐辛子	3~5個
酒	大さじ2
砂糖	大さじ1
しょうゆ	大さじ1
① 麦みそ	50 g

〈作り方〉

- ① 豚バラ肉は5cm幅に切る。
- ② カボチャは拍子木切りにし、電子レンジにかける。
- ③ エリンギは横半分に切り、縦に5mm幅に切る。シイタケは薄切りにする。
- ④ フライパンに油を熱し、ニンニクと唐辛子を炒め、①を炒める。
- ⑤ ③を加えて炒め、②と④を加え、さらに炒める。

サバのみそ煮

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約200kcal

サバ	4切
ゴボウ	1/2本
白ネギ	1本
① 生姜 (スライス)	1かけ
酒	大さじ4
砂糖	大さじ1
薄口しょうゆ	小さじ2
麦みそ	60 g

〈作り方〉

- ① サバは皮目に切り込みを入れ、湯をかけ、霜降りをし、冷水にとる。
- ② ゴボウは長さ6cmに切り、縦半分 (大きければ4等分) に切る。白ネギは3~5mm幅の斜め切りにする。
- ③ 鍋にゴボウとサバを重ねないように並べ、水をひたひたに入れ、①を入れて火にかける。
- ④ 湧いたらアクをとり、ゴボウがやわらかくなるまで弱火で炊き、しょうゆと麦みそを入れて炊き、最後に白ネギを加えて火を通す。

※盛りつけ時に針生姜をのせれば、ひと味違った食感・風味が味わえる。

蒸し野菜 みそディップ

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約130kcal

サツマイモ	1本
エリンギ	2本
人参	1/4本
カブ	2個
酒	少々
塩	少々
ヨーグルト (無糖)	100 g
麦みそ	大さじ2
レモン (しぼり汁)	1/4個分
ハチミツ	小さじ1

〈作り方〉

- ① ギャルにキッチンペーパーを敷き、ヨーグルトをのせて水分 (ホエイ) を切っておく。
- ② サツマイモは皮つきのまま1cm幅の半月切り、エリンギはひと口大に切り、人参は7mm幅の輪切り、カブはくし切りにし、酒と塩をふり、蒸す。
- ③ ボウルに麦みそを入れ、①を少しずつ加え混ぜ、ハチミツとレモン汁を加えて混ぜる。
- ④ ③のみそディップに、②の蒸し野菜をつけて食べる。

えひめ逸品柑橘

愛媛きよみサイダー 期間限定

愛媛きよみサイダー

柑橘王国「愛媛」の隠れた逸品をお届け

「きよみ」とは、温州みかんとオレンジを交配した柑橘で、産地・愛媛では贅沢な柑橘として親しまれています。甘みと酸味のバランスがよく、風味豊かな味わいのきよみ果汁炭酸をお楽しみください。

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304

http://www.ehime-inryo.co.jp
(通販専用) http://www.pom-j.com




えがお 愛顔つなぐえひめ国体
第72回国民体育大会 平成29年9月30日(土)～10月10日(火)


えがお 愛顔つなぐえひめ大会
第17回全国障害者スポーツ大会 平成29年10月28日(土)～10月30日(月)

君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え

JA全農えひめ

(株)えひめ飲料／JAえひめアイパックス(株)／JAえひめフレッシュフーズ(株)
 (株)ひめライス／JAえひめエネルギー(株)／(株)えひめフーズ／JAえひめ物流(株)

VEGETABLE OIL INK
 環境に配慮した植物油インキを使用しています。

この冊子は再生紙を使用しています。